

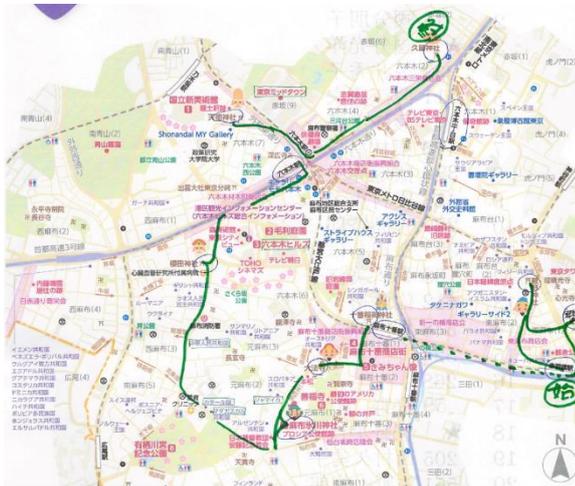
ワールドステイクラブの旅 報告

新春 芝・麻布・六本木七福神めぐり

企画委員会

新年恒例の七福神めぐりをしました。正月早々能登を震源とする大地震や羽田空港での飛行機炎上事故が発生しましたので、本年の幸先での暗雲を吹き払う祈願をしました。

起点は港区赤羽橋です。ここは大江戸線地下鉄の駅で、地上に上がると目の前に東京タワーが聳え立っていました。インバウンドの人気観光エリアなので、訪日の観光客が多く一緒に交じっての七福神巡りの開始です。本年の七福神巡りでの順路には、名店の立ち並ぶ麻布十番、各国大使館が軒を連ねる元麻布地域など、賑やかさと閑静とがやや曲がりくねったそして少々の坂がある街路を軸にして自然に織りなされていました。街歩きの楽しみをたっぷり味わえる、上品な町並みも巡ることができた思い出が多い七福神参拝になりました。



日時：2024年1月7日（日）午後半日
時間：集合 大江戸線赤羽橋改札 13時
解散 六本木交差点 16時

順路 集合→【宝珠院；弁財天】→
【熊野神社；恵比寿】→【十番稲荷神社；宝船】→
【大法寺；大黒天】→【麻布氷川神社；毘沙門天】→
【櫻田神社；寿老人】→【天祖神社；福祿寿】→解散
【久国神社；布袋孫】は時間の都合で見送り

距離 8km 歩数 1.2万歩
参加者 18名

懇親会 六本木の居酒屋にて有志にて

芝・麻布・六本木の七福神めぐり

東京都港区のおすすめコースに従い順次に粛々そして祝！祝！と辿りました。途中念入りに寿ぎましたので、行程時間が長くなり、六本木二丁目の久国神社布袋さまは見送りました。



芝公園の東京タワーを仰ぐ場所で、出発の集合写真をパチリと撮影しました。

◎宝珠院（弁財天）芝公園 4-8-55

宝珠院には、港区指定文化財の閻魔大王があり、寄木造りで、貞享2年（1685）の作だそうで、右に司録、左に司命の二像を従えていました。



肝心の弁財天は、この閻魔大王を参拝して右手に回ると華やかにおわしました。七福神唯一の女神に、丁寧にお祈りを捧げました。

◎熊野神社（恵比寿）麻布台 2-2-14

養老年間芝浦の地に鎮座。文明年間に太田道灌により再建。当社の恵比寿様は道灌が出陣又は凱旋の折、赤羽橋付近（勝手が原）に集まり参詣し、



鯛を供え戦勝を祈願したことから恵比寿稲荷(現在本殿合祀)となったそうです。

この付近は高層ビル街ですので、神社はその足元を固めるように鎮座していました。

◎十番稲荷神社(宝船) 麻布十番 1-4-6

七福神めぐりではめずらしい宝船の巡拝所となっています。境内には、宝船の石像や火災から屋敷を守ったとされるかえる(麻布七不思議の一つ)の謂われに因んだ石像がありました。



短い石段の左に、宝船が鎮座していました。弁天さまを中心にして、七福神が全員そろって仲良く並んだ石造りの宝船です。

ここは麻布十番の商店街に通じる交差点ですので、人出が多く正月らしい賑わいでした。



◎大法寺(大黒天) 日蓮宗 元麻布 1-1-10

榮久山大法寺と号し、開山は慶長2年(1597)で、江戸時代は赤門寺と呼ばれ、甲子(きのえね)の祭日には縁日が開かれています。当山奉安の大黒天像は、伝教大師作『三神具足大黒尊天』です。



今回の七福神巡りでは、唯一のお寺さんでした。門脇右側に枝垂れ桜の枝が、春の到来の準備をしているように見えました。

◎麻布氷川神社(毘沙門天) 元麻布 1-4-23

太田道灌が現在地より300m程北の一本松付近(麻布高台の目印)に勧請し、その後、万治年間(1658~61)に現在地に移転しました。麻布郷総鎮守で江戸氷川七社の一つであったといわれています。



背景に高層ビルがあるのが、現代の七福神巡りの特徴です。元麻布ヒルズのForest Towerで、上部が膨らんでいるデザインです。

氷川神社の神輿はここも豪華ですが、ここもそれにもれず立派でした。納めている蔵の扉が半分開いて、眺めることができました。



◎櫻田神社(壽老神) 西麻布 3-2-17

治承4年(1180)源頼朝公の命に依り、現在の霞ヶ関に創建されました。徳川家康入府の後、寛永元年現麻布に遷座されました。壽老神は境内福壽稲荷社に祀られ、毎年1月1~8日御神像を一般公開しています。



参拝した折は、建て替え中とのことで近接のビルに遷座していました。道路に面したビルが、参拝の入口です。

◎天祖神社(福祿寿) 六本木 7-7-7

約600年前毎夜、江戸湾から竜が灯明をあげに来ていたことからそこに社を建てて神様をお祀りしたそうです。竜が持っていた灯籠(竜灯りゅうどう)



からこの地を竜土村と呼び、神社は龍土神明宮と呼ばれ人々から親しまれています。この神社の付近の旧地名は龍土町です。懐かしい仏料理の名門龍土軒は、ここに今もあります。

◎久國神社(布袋尊) 六本木 2-1-16

太田道灌が勧請したと伝えられています。所蔵品に鎌倉時代の名工久国作による道灌寄進の名刀があります(非公開)。また、正面拝殿の額は勝海舟の筆によるものとされています。



時間の関係で今回はパスしましたので、写真での紹介です。この神社の背景に高層ビル群が林立します、現代ですね!なお、米国大使館はこの近くにあります。

由緒ある土地の紹介

この地域は、古くからの由緒ある場所、明治以降の外国大使館の並ぶ地域、つい最近の新開発エリアが織りなして、モザイク様になっていました。

■麻布十番商店街

地下鉄南北線と大江戸線に最寄り駅「麻布十番」があり、少々の遠方からでも便利に立ち寄れる地元風の商店街です。蕎麦の更科、豆菓子の豆源、そしてたい焼きの店のあるところす。



今回の巡りでは、いろいろなお店に立ち寄りました。老舗の良さが生み出す懐かしい雰囲気に加えて、時代の流れにそった新しいモダンなお店が目立つようになってきています。

■坂道

江戸時代、住所を示すのに坂道を手掛かりすることが多かったようです。麻布十番商店街近くにも、今に続く坂が多くあります。

・七面坂；七面大明神が像があったお寺の傍にあった坂が七面坂です。分かりやすい命名です。

・大黒坂；今回の巡りの一つ大法寺の大黒天に因んでいるようです。

・一本松坂；麻布の高台にある一本松が目印で、ここから坂道が4つに分岐しています。一本松坂、暗闇坂（暗い坂道）、狸坂（人を化かす狸が出る）、そして大黒坂です。

・暗闇坂；この道を奥に進むとオーストリア共和国の大使館の前に出るこの道は、昼間も木々が鬱蒼として暗かったそうです。

・仙台坂；江戸時代仙台伊達家の下屋敷があったからだそうです。現在は四つ角になっていて、今回の巡りでもここを右手に曲がりました。



外国大使館の紹介

■オーストリア共和国

煉瓦造りの瀟洒な建物で、暗闇坂の先にあります。ウィーンの街の華やかさを、内に秘めていました。



■アルゼンチン共和国

大使館の掲示がなければ、ちょっとした豪邸の感じでした。



■カタル国

大使館は、奥まったところにあり、案内の道標が上の古風な明かりにピッタリでした。2022年サッカーワールドカップが開催されて、日本でもよく知られるようになった国でした。



■マダガスカル共和国

大使館の規模はそれぞれの国の事情で様々です。大きな敷地を構えた大使館は、英米仏が目立ちます。新興の国の大使館には、マンション様が多くあります。マダガスカル大使館は、一見マンションと見間違ふようです。



新開発エリアと古い雰囲気の紹介

■六本木ヒルズ

交差点の入り口には、目印のシンボルである丸印〇6個がデザインされた柱がありました。

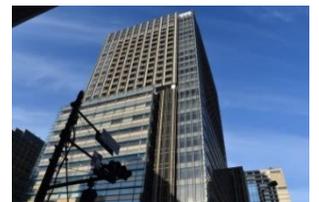
ここには、毛利庭園、テレビ朝日、森美術館などがあります。



■東京ミッドタウン

入口をしめす道路標識が、信号機についていました。

見上げるビルの景観は現代ですね。



■安藤記念教会



石造りの落ち着いた教会です。道路に面したステンドグラスが、目立ちます。坂上の瀟洒な町の目印になっていました。

■有栖川宮記念公園

氷川神社や安藤記念教会から続く仙台坂上の近くにあるのが、この公園です。春に、ソメイヨシノが開花し、美しく見事です。大島桜、枝垂れ桜も美を競います。とても上品なお花見のスポットとして有名です。

ワールドステイクラブの恒例のお花見の場所候補です。

■不思議な建物

仙台坂上近くで、不思議な形の建物を遠望しました。

インバウンド観光客に人気のホテルのオーナーが、お住まいだそうです。



七福神へ参加しました

■古い通りの面影

当時流行の赤い煉瓦塀の通りが残っていました。台地である麻布台の上には、豪邸が門構えや門柱を競い、ピアノの音が流れる、そして台地の裾野は商人や庶民のささやかな住宅が肩を寄せる土地でした。この風景は、その庶民派の風情です。



【懇親会】有志 六本木の居酒屋

ビルの中にある居酒屋でした。2階に大きなテーブルが配置され、ゆったりとした店でしたので大いに懇親が深まりました。七福神めぐりでの諸所のことを酒の肴にして、次の2月三浦マグロツアーでの美味なる食旅に期待をしながら、・・・

七福神巡り あれこれ

今年の七福神巡りの道筋に、麻布十番の商店街がありました。ここにはあれこれと名代のものやお店があり、途中での立ち寄り初荷の初買いの気分を楽しみました。



総勢20名にもなろうという大人数での巡りでしたが、途中脱落者がなく、ワールドステイクラブ会員の健脚を誇示する巡りでした。

